

理科學術談話會々報 第九號

目次

◎講話

おきなえびす及さやなみ

岩川 教授

小笠原及硫黄島旅行談

脇水 講師

器械畫法ノ誤差

上原 いつ

蟲癭ニツキテ

阿部 とく

「インク」ノ製法

牧田 らく

接木雜種

宮崎 素

◎寄稿

水前寺のり、「アカンサス」

矢部 教授

及ビテウセンにんじん

乙部 教授

卒業生諸子ニ告グ

保井 コノ

みづにら及ビくらまこけ

◎本會記事

◎雜報

◎新著紹介

廣 告

本會ノ庶務會計取扱方ハ是迄富岡
龜門氏ニ囑託シ居リシガ今回都合
ニ依リ平島權藏氏ニ依囑スルコト
ナリタレバ今後會費御送付ノ件ハ
勿論其他本會ニ關スル一切ノ事ハ
東京女子高等師範學校動物學教室
ノ同氏ニ宛テ、御照會下サレ度候

五月 日

理科學術談話會

會費未納ノ方ハ至急御拂込被下度然ラザレ
バ御一名毎ニ請求致ス可キ事ニ相成手數甚
シケレバ何卒此際一部分ツ、ニテモ宜敷候
ニ付御送付被下様希望之到ニ御座候

理科學術談話會々報 第九號



おきなえびす一名長者貝

岩川 教授

元來おきなえびすの類は古生代の志留利亞紀に現はれ、中生代に入りて蕃殖を極めしも、其の後漸次に衰へ、從つて其の化石は四百種あれども、現今生存するものは世界中僅に四種の外に出でずして、其の中の一様は本邦の沿海に産すと稱せられたり。これを初めて學界に紹介せるは明治七八年頃今の醫科大學の前身たる東校に教授の職を奉じたる獨逸人ヒルゲンドルフ氏にして、氏は本邦に滞在中、相州江の島の貝材工物店に躑躅居れる貝殻中にこれを發見せりといふ。氏は歸國の後 Pleurotomaria beyrichi なる學名を以てこれを學界に報告せり。故に、本邦産の標本は唯此の一個に止まり、而かも其の精細なる産地は不明に歸し居れり。

今を距る約二十年前、英國博物館より此の貝殻一個二百圓にて募集致したき旨を我が大學へ照

會し來れり。然るに當時其の標本は獨り大學に所藏せられざるのみならず、我が動物學者も從來更に注意せざりしものゆへ、三崎臨海實驗場の採集者に注意を促して兩三年を経過せり。然るに其の後明治二十六年頃、大學の採集家たる青木熊吉氏は遇々これを鈎獲して生きたる標本を大學に持參し、吾人動物學者をして喫驚せしめたり。

當時、予は東京帝室博物館の貝類標本の調査に着手せし際ゆへ、舊來紙包の儘にて物置の中に所藏せる標本中に、或は其の一個を發見し得べきこともあらんかと、搜索せしに果してこれを見出せり。其の附箋に大隅産と記せられしが、相摸灘に産することは確められしも、未だ西南の諸海に産するを聞かざりしが故に、予は大隅産とあるを疑ひ居れり。其の和名に就ても當時詮索を遂げず、其の價の不廉なるより大學の動物學教室にて稱へ始めたる長者貝を其の名稱とせり。其の後、予が一般貝類の和名を調査するにあたり、目八譜に載せられたる翁戎は、愈々此の長者貝に相當するを確むるを得たれば、爾來これをおきなえびす一名長者貝と稱するに至れり。

三崎沖に産するものは、唯一種のみなれども京都の平瀬與一郎氏は、土州の柏島沿海に數個を採集せられ、同氏は柏島産は三崎産と其の種類を異にし、而かも一種に止まらずして兩三種あるべしといへり。兎に角此の南海に産するの事實より察すれば夫の帝室博物館の古き標本に附記せる大隅の産地は強ち誤謬なきを證するに足るが如し。

因みに三崎に於けるおきなえびすの採集法及び産額、價格等に就て一言せん。最初、青木氏が獲たるものは這ひ繩に罹りたる由なり。這ひ繩は元來魚族を鈎獲する爲に用ひらるゝ漁具なるがおきなえびすは肉食性なるよりこれに掛かるものと察せらる。又死殻は章魚壺の中に往々發見せらるるといふ。青木氏の言に依れば、従前といへども屢々這ひ繩にかゝれるに相違なきも、無智の漁師は魚族の外何物にも眼を假さざるが故に、直ちにこれを取り捨てたるなるべし。獨りおきなえびすのみならず、相摸灘の名産たる階老同穴も又然りと、現在階老同穴を採集するには此の這ひ繩を用ひ、完全なる標本を獲るには是れ以外に適當の漁具なしと、至言といふべし。おきなえびすは、現今一年間に平均四五個を採集せられ、目下の相場は一個二十五圓にして其の多くは横濱にて動物標本を賣買する英人オーストン氏に引き取らるゝといへり。

さざなみに就て

岩 川 教 授

さざなみは、普通の家鶏の一變種に過ぎざれども、本邦の特産として最も有名なり。東京帝室博物館に陳列せる六羽の剝製品中、二羽の雌は尋常の家鶏と更に異なる所なし。然れども、四羽の雄はいづれも極めて長き尾を有し、其の長さ短きも八尺、最も長きものに至りては實に一丈四尺六寸に達せり、眞に珍品といふべし。養鶏の術は、近來外國に於いて隆盛を極め、従つて生